

土木学会の「デザインコンペ」および「研究発表会」で受賞しました

地域景観チーム

1. 「土木学会デザインコンペ」で入選しました

平成30年12月21日、土木学会デザインコンペ「22世紀の国づくりーありたい姿と未来へのタスクー部門A 22世紀の国づくりのかたち」の最終審査が東京大学で開催され、地域景観ユニット（現 地域景観チーム）の岩田研究員と松田総括主任研究員（現 上席研究員）が他分野の学識者らと提案に参加した応募作品「幸せの道 ru-pirka」が入選しました。

本コンペは、現状および近未来の課題認識、これを踏まえた22世紀の国づくりのコンセプト、その実現のための方策、それが具体的な地域に展開された場合の姿をトータルに描くことをテーマに実施され、1次審査を通過した全国6チームがポスターとプレゼンテーションによる公開の最終審査に臨みました。

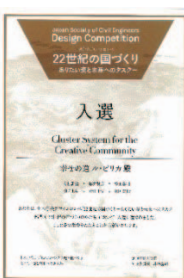
「幸せの道 ru-pirka」は、北海道の地方中核都市を中心とした人口30万人圏域を想定し、進化する技術と産業、豊かな自然環境を生かした未来のインフラと地域像をアイヌ民族の価値観や北海道150年の歴史を踏まえて22世紀の北海道が目指すべきランドデザインとして提案しました。

■「幸せの道 ru-pirka」提案チームのメンバー
（所属は受賞時点の名称）

有村 幹治 室蘭工業大学 准教授
岩田 圭佑 寒地土木研究所 地域景観ユニット
松田 泰明 寒地土木研究所 地域景観ユニット
池ノ上真一 北海道教育大学函館校 准教授
藤井 賢彦 北海道大学大学院 准教授
林 匡宏 株式会社北海道日建設計



写真-1 最終審査にて多数の聴衆者を前に壇上に上がる全チームと審査の様子および賞状



公開審査の全体を通し、本コンペのように長期的なビジョンを議論する機会の重要性や、より科学的知見に基づいた提案を期待する声も聞かれました。

本コンペの詳細や各チームの提案内容は、土木学会デザインコンペウェブページでご覧いただけます。

■コンペHP：<http://jsce-22kunizukuri.net/compe.html>

2. 「景観・デザイン研究発表会」で受賞しました

平成30年12月8日～9日に、長崎市の長崎市民会館で開催された土木学会「第14回 景観・デザイン研究発表会」において、笠間研究員が「寒地土木研究所で公表した「北海道の色彩ポイントブック」とその概要について」と題したポスター発表を行い、優秀ポスター賞を受賞しました（連名受賞）。発表は、当該「ポイントブック」における提案の要点のほか、その根拠となっている被験者テストや実在構造物の色彩事例の評価結果などについて解説したものです。

この「北海道の色彩ポイントブック」は、北海道の景観や道路環境の特殊性を考慮した際の道路附属物等の色彩の望ましいあり方について、研究成果をもとに取りまとめもので、地域景観チームのウェブページからダウンロードできます。

■「北海道の色彩ポイントブック～北海道および積雪寒冷地の道路施設の色彩検討の手引き」2018.
<http://scenic.ceri.go.jp/manual.htm>



写真-2 「景観デザイン研究発表会」における発表の様子および賞状

（文責： 松田 泰明）